



逸見 逸見の魅力満載 新「おさんぽマップ」

地域の皆さんだけでなく、観光で訪れた方も楽しめる「おさんぽマップ」を3月にリニューアル。メディアで注目を集めた地域ゆかりの人物「三浦按針」に関連した場所の紹介のほか、おすすめスポット「つつじ並木」の追加など、注目ポイント満載の内容に。

本マップは、逸見地域の各世帯へ配布するほか、逸見行政センターや地元店舗で配架予定。春のおでかけの機会に、「おさんぽマップ」とともに逸見を満喫してみませんか。

追浜



「自分ごと」として捉える、 災害への備え

昨年11月に、防災意識のさらなる向上を目指して行われたのは、「防災講演会」。東日本大震災で、釜石市の中学校教師として多くの子どもたちの命を守り抜いた、糸日谷(いとひや)美奈子さんを講師に招きました。

「あなたは助けられる人ですか、それとも助ける人ですか」、講演の中で糸日谷さんが受講者に問いかけた内容です。有事の際に、「助ける人」として行動するヒントを得るとともに、「自分ごと」として防災に向き合う貴重な機会となりました。

地域の数だけ アイデアがある

各地域で行われているイベントや活動、運営の工夫を紹介。それぞれが特色ある取り組みを通じ、住民同士のつながりを深めています。他のエリアの取り組みを知ること、新しいヒントや交流のきっかけが見つかるかもしれません。

浦賀

町内会活動が スマホで更に円滑に



浦賀地区連合町内会では、LINEを用いた情報交換やリモート会議の開催を積極的に推進中。紙文書でのやりとりが減ったことで、タイムラグが解消されて効率的になったほか、困りごとがあるときに気軽に聞ける、便利なツールとして活用する場面も。

また、リモートで会議を開催することで、仕事などでその場にはいない方などが、どこからでも情報共有できるメリットも。若い世代が、町内会活動を進めやすい環境づくりにつながっています。

※「LINE」はLINEヤフー株式会社の商標または登録商標です。

衣笠

「きぬがサポーター」 求む！

衣笠商店街では、地域での交流や生きがいを目的としたボランティア「きぬがサポーター」が活躍中。昨年11月の「三浦一族企画展」では、きぬがサポーターがコンシェルジュとして来場者への案内役を担う場面も。また、2時間の活動後には、商店街で利用可能な買い物券が謝礼としてもらえます。学生からリタイア世代まで幅広い世代が関わる「きぬがサポーター」。衣笠を盛り上げる一員として、あなたも活動に参加してみませんか。



大津

みんなに優しい設計 大津行政センター



横須賀市内で最も新しい行政センター、それが大津行政センターです。2016年には、「神奈川県バリアフリー街づくり賞」を受賞し、誰もが使いやすい設計が評価されました。特に、図書室は市内でも利用者数と貸出数トップを誇る人気スポット。そして、学習室は勉強・会議・趣味など、さまざまな用途で利用可能。3階から見える電車と海の眺望も、来庁者の注目を集めています。魅力満載の「大津行政センター」へ一度、足を運んでみませんか。



本庁

歩くだけではない 「歩」の会

鶴が丘町内会では、毎週金曜日の夕方に「歩こう会」を開催。これは、町内を歩きながら、地域の高齢者に声掛けなどを行う取り組みです。興津会長は、「始まったきっかけの1つが町内会員の健康づくり。高齢者の安否確認も兼ねるこの活動は、気づけば3年以上になった」とこれまでの道のりを語ります。

デジタルが便利な時代になりつつも、「みんなで集まって声を交わす」、こうした取り組みが地域のつながりを更に強めています。



北下浦

困りごとの解決をお助け 地域生活相談窓口

北下浦行政センターでは、2023年から「地域生活相談窓口」を常設。先日、とある町内会から寄せられたのは、「集積所のごみ出しマナー徹底のため、看板を作りたい」という相談。すぐに現場確認に向かうとともに、掲載内容を町内会と一緒に検討して、無事に掲出することができました。

現在、全センターに設置済みの「地域生活相談窓口」。生活の悩みごとや困りごと、相談先が分からないことなど、まずはここで話してみませんか。



久里浜

「郷土愛」 未来につながる

「久里浜の文化を考える会」では、子どもたちの郷土愛の醸成を目的に、地域への理解を深める取り組みを進めています。活動の一環として、「くりはま歴史絵本」「くりはまカレンダー」「くりはまトートバッグ」などを作製・販売。同会の小川会長は「住んでよかった、と言われるまちにしたい。幼少から郷土愛を育むことで、地域活動への参加意欲につながれば」と語り、地域の新たな担い手の誕生に期待を寄せています。

グッズは久里浜行政センターで販売し、収益金は久里浜の史跡保存などに活用。

